

教科	科目名	学年	単位数	必修 選択
理科	物理基礎	1	2	必修

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動とさまざまなエネルギーへの関心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う
------	--

年間スケジュール

期間	単元・項目名・実施内容など	受講に対してのアドバイスなど	備考
1学期中間	第Ⅰ章 力と運動 第1節 物体の運動 ①速度 ②加速度 ③落下運動	物理を学習する上での基礎を学びます。単位の扱いや等加速度運動の3式の意味、扱いを習得しましょう。計算力が必要です。	
1学期期末	第2節 力のはたらきとつりあい ①さまざまな力 ②力の合成・分解とつりあい 第3節 運動の法則 ①運動の3法則 ②運動方程式の利用 ③抵抗力を受ける運動	中学校の学んだ学習内容を発展させ、物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い、つりあいについて理解を深めます。また、物体の運動など、さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を学習します。期末の試験範囲は広いため早めの試験準備が必要。	
2学期中間	第Ⅱ章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー ①仕事と仕事率 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギー	中学で学んだエネルギーを発展させて学習します。学習中に、文化祭などの行事が入ってきますがコンスタントな復習が必要です。	
2学期期末	第2節 熱とエネルギー ①熱と温度 ②エネルギーの変換と保存 ③気体の圧力・温度・体積 第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質 ①波の表し方とその要素 ②波の重ねあわせ 第2節 音波 ①音の伝わり方 ②物体の振動	熱、気体、波とさらに学習範囲が広がり演習の量も増加します。地道な学習が要求されます。	
学年末	第Ⅳ章 電気 第1節 静電気と電流 ①静電気 ②電流と抵抗 ③直流回路（発展） ④電気エネルギー 第2節 電流と磁場 ①磁場 ②モーターと発電機 ③交流と電磁波 第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーと化石燃料 ②原子力エネルギー	5回の定期考査の中で一番試験範囲が広がります。質、量ともに充実した家庭学習が必要です。3年での受験勉強に繋がる学習習慣を築いてください。	

評価方法と	知識・技能・・・定期考査
評価のポイント	思考・判断・表現・・・定期考査
	主体的に学習に取り組む態度・・・提出物、小テスト等

教科からのアドバイス

授業を大切にし、集中して望むこと。また、必ず復習をすること。予習よりも復習に時間をかけてください。